

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第三十九卷 第二號

昭和九年八月一日發行

哀辭
故田島博士近影及署名
故田島博士原稿及京大弓道々場における博士

論叢

骨牌税に就きて……………法學博士 神戸正雄
供給曲線の性質……………文學博士 高田保馬

時論

輸出統制の諸問題……………經濟學博士 谷口吉彦

研究

貨幣的景氣論史……………經濟學士 柴田敬
金物價と貨幣價值安定……………經濟學士 松岡孝兒
アダム・スミスの廉價即豐富論……………經濟學士 白杉庄一郎

記事

田島博士逝く
故田島博士年譜及著書論文目錄
追憶文

織田 萬 神戸 正雄 山本美越乃
河田 嗣郎 本庄榮治郎 小島昌太郎
汐見 三郎 黒正 巖 田島 順
谷口 吉彦 大國 壽吉
石川 興二

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁轉載）

田島先生を憶ふ

本庄榮治郎

私が始めて經濟學なるものの講義を聴いたのは京都

法科大學における田島先生の講義であつた。其頃は高等學校の一部甲・丙(法科)では經濟通論の講義はなく、

たゞ一部乙(文科)に講義があつただけである。私は一部甲に在籍したから、經濟通論といふ科目はなかつたが、三年の英語の時間に、某先生が Walker の Political Economy を教科書として用ゐられたが、それは英語としてであつて經濟學としてではない。従つてたゞ文

字を讀むといふだけで何のことかわからずに濟んで仕舞つた。一例を舉げると第二頁の或る句を先生は「經濟學は富の愛を教へなさぬ」と譯された。此調子では Value や Price の意味がわかる筈はなく、色々の經濟學上の術語は出て來ても、單語の譯を知るだけで内容は少しもわからなかつた。處が大學へ入つて田島先生の經濟原論の講義をきいて、始めて經濟學なるものを知り、殊にその講義が中々面白かつたので、經濟學に興味を覺えるやうになつた。後年私が多少とも經濟學方面の研究をするやうになつたのは、このとき先生に目を開けて貰つた結果である。

先生の講義は寸鐵人を刺す底の簡勁なる文章と、談論風發的の説明とで、中々面白く、時々諧謔を弄せられた。その中で未だに忘れもせぬことは、サン・シモン のことで、彼は晩年窮乏の極に陥り、死するときは三四文しか持つてゐなかつた……と言はれた。その頃先生の講義案は日本野紙に毛筆で書いてあつたらしく、先生は常に鞆の中に墨池と筆とを入れ、ある時は矢立

を持つて來られて、教室で時々原稿に手を入れられた。萬年筆を使はれたのはそれより一二年後のことで「これは非常に便利だ」といはれた。勿論その當時學生などで萬年筆なんか持つて居るものは一人もなかつた。そして試験のときは皆日本野紙に毛筆で答案を書いたのだから、やりきれぬ。その當時の先生方は、和服であれば必ず紋付羽織袴、洋服であればフロックコートの方が多かつた。講義や教室に對する考が今とは大分違つて居たやうである。偶々教室に煙草の烟がたち籠めて居るやうな時があると、田島先生は非常に御機嫌が悪かつた。

大正十四年の夏信州木崎湖畔の夏季大學に偶々日を同じうして先生と私とが講演することとなり、一週間程の間先生と起居を共にしたことがあつた。八月八日の第一日に開講式に列席した後、先づ先生が經濟原論の講義をせられ、次に私が國史上の農村問題を論じた。先生は既に白髪の大家であり、私は若輩の一書生である。後に聞いたことであるが、聽講者は恐らくあの若

者が原論の理屈をこね、老大家が歴史を講ぜられるのだらうと思つて居た處が、それが正反對であつたので驚いたといふ。その當時歴史などは老人の暇つぶしにやるもののやうに世間では思つて居たのであらう。それは兎に角として、この一週日の間、先生は規則正しく起臥せられ、時には漢籍を読み、時には湖上にボートを浮べ、或は水産試験場を訪はれ、又自動車で青木湖へお伴したこともあつた。ボートはいつも先生が漕がれて私が乗せて貰つて居る始末で誠に恐縮した。晩酌もあまり過されず、食事を共にしても決して無理に酒をすゝめられるやうなことはなかつた。自分の欲する故を以て他人に強ゆるが如きことは先生には絶対になかつた所で、却て吾々若い者の無理をよく聞いて下さつた。最終の講義の日には私の方が時間が早く終るため、直ちに出發する豫定になつて居たが、先生の講義の終るまで御待して御一緒に歸ることとした處が、先生は非常に喜ばれた。そして途中松本市外淺間温泉に一泊して歸京したのであつたが、先生には或は却て

御迷惑であつたかとも思はれる點があつたに拘らず、私に任せきりで、私のいふ通りにして下さつたことは、今に至るまで木崎湖畔の明媚なる風光と共に、私の愉快な思出の一つとなつて居る。

私はスポーツもやらず酒も飲まず、従てそういふ方面で先生に接することはなかつたが、研究上では時々御迷惑をかけた。これはずつと以前の話であるが、ある問題研究のため、先生に紹介狀を書いて貰つたことがあつたが、實は恐縮するやうな文言で御紹介下され、その御蔭で必要な文書を借り受けることが出来た。また雑誌の編輯などに關してもよく無理を聞いて下さつた。殊に後に私が教授の席末を汚すやうになつてから、先生は自分の弟子といふやうな考へでなく、全く同僚として我々を遇して下さつたことは色々の事柄について知り得る處であつて、眞に恐縮に堪えなかつた。近頃は御無沙汰勝ちになつてゐたが、本年の二月山本先生の還曆祝賀會のときに、先生も御出席になつて、例によつて元氣に満ちた朗々なる音吐を以て一詩を賦せ

られ、先生が老來益嬰鑠たることを喜んだにも拘らず、僅かに數ヶ月後の今日、幽明境を異にしやうとは誰れが思ひ設けやうぞ、恰も机上の燈火が一陣の風にふき消されたやうな感じがする。何といふ悲痛なことであるか、謹みて先生の御冥福を祈る。